

---

# ある猫の話

純

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある猫の話

### 【著者名】

ZZマーク

N82130

### 【あらすじ】

ある町のある猫のはなし  
絵本な感じを目指してみました。

(前書き)

初めての投稿するお話です。

読みにくいかもせんが、楽しんでもらえたら嬉しいです。

途中、悲しい表現があります。

苦手な方は「注意ください」。

あるところにて、白い猫がいました。

その猫は、子供の時に母親とはぐれてしまい、道端で泣いていたところを男の子に助けてもらいました。

そのまま猫は、男の子の家で飼つてもらえることになりました。

それから、猫と男の子とずっと同じ時を過ごし、男の子が男の人になると一緒に育つっていました。猫は幸せの中に居ました。

だけど猫は、不思議でたまりませんでした。  
なぜ、男の子と私は同じなのに違うのだろうと。

だけど、男の子がガツ「コウ」という場所に行き始めてからずっと一緒に居られなくなってしまいました。

ベンキョウとかトモダチヅキアイとかよく分からぬい事を始めたからです。

猫は男の子のカゾクにも可愛がつてもらっていたから、とても幸せな生活をしているのでしょうか。

でも、ずっと一緒にいた男の子いません。  
猫はなにかぽつかりとした気持ちで居ました。

だけど、また前と同じになると思つて我慢していました。

でも、それから何年経ったでしょうか、男の子が家にあまり帰つてこなくなりました。

猫の体がだんだんと動かなくなつてきました。

ああ、もひすぐ終わつてしまつのだなど、わかつた。

それから少しづして猫は終わりに向かつていき始めました。

暖かな日でした。

男の子だけがいない家で猫はゆくへつとゆくへつと熙りて生き始めました。

そして、よく聞こえない耳で、よく見えない目で男の子の存在を感じました。

猫は最後に男の子とあえて幸せでした。

男の子の姿を目に收めながら猫は最後に、次に会つときまは同じで会いたいと思いました。

今度は同じ速度で一緒に過いでじて生きたい。

そして、色の世界が黒に変わりました。

ある街に男の子と女の子が生まれました。  
ふたりの家は隣同士です。

それは…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8213o/>

---

ある猫の話

2010年11月10日02時11分発行